

# 日本で初めてヒアリが侵入した神戸での総合防除策 ～自然史博物館の技法が役立つ～

自然・環境マネジメント研究部 生態研究グループ

三橋 弘宗



ひとはくは「思索し行動し提言する博物館」を基本理念として設立され、科学的な知見と技術で社会課題を解決する役割があります。この役割が2017年に神戸港にて全国初のヒアリ侵入への対応でした。このとき、日本生態学会近畿地区会の会長でした（運悪い・・・）。この未知の課題に対応すべく、アリや外来生物対策の専門家、害虫駆除の専門技術者、行政担当者、企業担当を集めて緊急会合を行ったほか、メーリングリスト（ML）で異分野間交流を図り、課題解決ツールを整理。このやり方は、企画展を実施する要領と同じで、業界用語では”キュレーション”と呼ばれる方法です。通常は、行政だけで数名の有識者（完全に専門外も）で検討するのですが、深刻な危機でしたので、知の集積によって、全国の博物館などの専門家による初期鑑定、港湾作業員への聞き取り、全方位からの効率的な対策や変容行動を促すことが出来ました。この知見は、日本生態学会の提言書に取りまとめ、現在のヒアリ対策の基本方針に貢献しています。提言だけでなく新技術開発を行って現場活用されています。

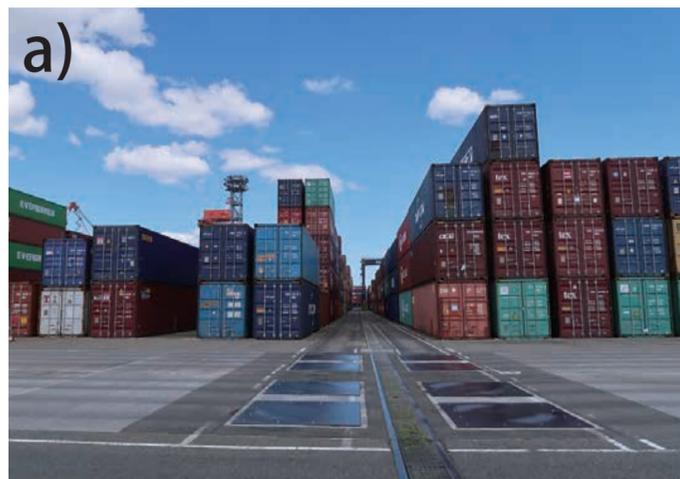


図 a) 神戸港のヒアリ現場 b) MLの議論でコンテナ床下がヒアリ栽培装置になっている仕組みを解明、c) 標本作成技術を用いて目地を含浸充填し防草・防虫する新技術（特許化）

Home > 学会について > 活動・要望書一覧

### 特定外来生物のヒアリ類に対する緊急的および継続的な対策に関する要望書

→ PDFはこちら

国土交通大臣 石井 啓一 様  
環境大臣 山本 公一 様

一般社団法人日本生態学会  
生態系管理専門委員会 委員長 鎌田 隆人  
近畿地区会 会長 三橋 弘宗

すでに報道されている通り、特定外来生物ヒアリ (*Solenopsis invicta*) が、兵庫県尼崎市および神戸市において、国内で初めて発見されました。これを受けて関係機関による緊急点検が実施されたところ、大阪市南港、弥富市名古屋港、東京都大井町から確認されました。この事実は、ヒアリが複数のルートで、既に広い範囲に拡散していると判断されます。尼崎市および大阪市では女王アリも確認されているため、すでに繁殖している可能性も想定しなくてはなりません。これまでの国内外の知見では、ヒアリ類は主に港湾エリアから侵入することが知られています (Bertelsmeier et al. 2017)。外来生物対策を主管する環境省、ならびに港湾行政を主管する国土交通省に対しまして、下記のとおり緊急かつ継続的な対策を強く要望いたします。また、関係する省庁、自治体等についてもご周知くださるようお願いいたします。

- 発見初期段階における徹底的な防除と継続的なモニタリングの実施
- 新たな侵入に備えた体制の構築と継続的なモニタリングの実施

緊急に対策が必要な理由

ヒアリやアカカミアリ（以下、ヒアリ類）は攻撃性があり、人体に咬傷するため、ヒアリ類が定着して各地に拡散し蔓延した場合、人々の生活に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。ヒアリの脅威は、スズメバチや個体密度が高くなるため、その分布域の住民のうち、少なくとも一部の報告があります (Stafford et al. 1989)。この高い被害率に加え、農家への健康被害のみならず、農業や畜産に甚大な被害をもたらすことが懸念されています。特にヒアリは、日本生態学会からの要望書 (約67%)

日本生態学会からの要望書